

令和7年度 第4回市長と能ん美りカフェトーク

## 能美市国際交流協会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和8年2月26日（木）18:30～19:30

会 場 寺井地区公民館 国際交流協会事務所

参加人数 13人

○参加者自己紹介

○意見交換

（国際交流協会の取り組みについて）

【会長】本日は当協会の役員と事務局のメンバーが参加した。まずは、取り組みや令和8年に向けた話をさせていただく。1月から企業訪問を行い、これまで日本語教室に通っている外国人が所属する企業を中心に12社を回った。企業とのつながりの必要性を感じており、今後も企業訪問や地域行事への参加を進めたい。令和8年に向けた予算要望として、事務職員の給与体系の見直しを市に求め、予算案に計上される見込みである。新規事業として、カナダ・バンクーバーの財団から学生を受け入れることがほぼ決定した。6月下旬に4泊5日程度の日程で、ウェルネスハウスさらいに宿泊する予定である。また、部活動の地域展開として、寺井中学校の国際交流部を当協会では実施できないか検討しており、4月の立ち上げに向けて学校支援課と相談している。NPO法人YOU-Iとも連携し、当協会がホームステイの受け入れ窓口等としての役割を担う方向で進めている。

（イベントと交通課題について）

【参加者】2月に国際交流サロンでベトナムの旧正月行事を開催し、120人以上が参加した。

【参加者】イベントの参加者はどんどん増えている。地元の人たちが外国人の方と気負わず関われるきっかけを作ろうと活動しているが、なかなか難しい。

【市長】例えばどのような課題があるのか。

【参加者】交通手段である。根上り七夕まつりや辰口まつりの際、根上と辰口間の移動手

段がないので、夜だけでもシャトルバスを出してほしい。外国人だけでなく、日本人も利用するのではないか。

【市長】人数や時間が不確定な中でのバス運行は難しい。市の三大まつりの時にのみバスを無料にしているが、最終便は早い時刻である。

【参加者】早い時刻だと、まつりの帰りに利用できない。外国人はみんな、まつりが大好きである。

【市長】のみバスの時間延長は、運転手不足等の問題からなかなか難しい。別に定員29人程度のマイクロバスを出すとしても、事前の申請や人数の把握が必要である。過去に他の団体の要望で実施した際も利用が少なかった経緯がある。今、国造地区でライドシェアを行っているが、利用者が少ない。他の団体とのカフェトークの中で、子どもの送迎へのライドシェア活用も提案したが、責任問題等の理由から反対が多かった。レンタカーやカーシェアリング等の活用も含め、検討したい。

【参加者】外国人が地域に根付くためにも、祭りやイベントへの参加は重要である。

(生活・買い物事情について)

【市長】外国人の方は、買い物や食材の入手はどうか。

【参加者】自転車やのみバスを利用し、上手に買い物している。

(医療・生活相談について)

【市長】医療に関しては、外国人受入可能な医師を検索できるサイトがあるほか、医療機関での電話による同時通訳の仕組みがある。

【参加者】外国人にとって、体調不良時の通院は難しく、知人を頼ったり、当協会へ付添いの依頼がきたりしている。

【参加者】子育て教室への付添い要望もある。

【参加者】知人を頼れず、困っている人もいると思うので、当協会を頼ればよいことを周知したい。

【市長】能美市への転入時に市役所窓口でお渡しする資料の中に協会のチラシも含まれている。

【参加者】渡された資料が多く見られていない可能性がある。窓口での情報だけでは多分わからないので、当協会でも外国人にゴミの出し方等の講習をすれば良いのではないか。

【市長】市役所としても助かる提案である。

【参加者】企業や大学に属さない家族などは相談先がなく困っている。当協会に子育て、仕事、家探し、虐待などの相談が寄せられている。

【参加者】医療機関での電話による同時通訳について、費用負担は病院側が行うのか。

【市長】たしか日本医師会医師賠償責任保険の医療通訳サービスで、年20回までは無料であり、それを超える場合は医師負担だったと記憶している。

(地域トラブルと共生について)

【市長】能美市の外国人人口は過去最高の1750人となった。これまではベトナム、中国の方が多かったが、インドネシア等の方が増えた。近隣トラブル等の苦情は寄せられているのか。

【参加者】協会には届いていないが、企業が直接対応しているケースもあると聞いている。ゴミ出し等のルール違反を行った人が外国人とは限らず、濡れ衣を着せられることもある。日本人でも他所から来た人はルールを知らないため、違反してしまうこともある。

【市長】市営住宅に外国人が入居する際に、近隣住民から不安の声が寄せられたが、説明を行って理解を得ている。外国人だからといって、区別しないで一緒に考えるべきである。

「外国人は「外国人」ではなく「人」である」と言われたこともある。

【参加者】意識が変わるには時間がかかるが、行動していかなければならない。市職員の意識はどうか。

【市長】部署によって異なるのではないかと。例えば、窓口部署では同時通訳の仕組みの活用で、誰でも対応できるようになっており、意識は改善されていると思う。

(外国人家族の生活等について)

【市長】会社や大学に行っている人は比較的交流が取り、生活もしやすいかもしれないが、その家族は大変であろうと思う。外国人の家族、特に子どもの生活はどうか。

【参加者】幼少期からいる子どもたちは馴染んでいるが、中学から来た子ども等は難しい。ただ、辰口中学校の先生方が優しく対応してくれている。

【市長】勉強熱心な子が多い印象だ。

【参加者】JAIST関係や、親が教育熱心な家庭はそうだが、環境による差もある。

【参加者】町の中小企業だと、技能実習が始まる前に来た外国人の方が永住権を取り、工場長になっている例もある。

【市長】市内企業でも、外国人チームに仕事を任せている事例が増えている。

(人財確保と定住促進について)

【市長】看護・介護職の外国人はどこに勤務・居住しているのか。

【参加者】市内の施設や病院に勤務し、寮やアパートに住んでいる。

【市長】将来の看護師や介護士の人材不足に備え、外国人材の確保が必要である。看護師や介護士に育てるまでの費用を負担しても、就職せずに国に帰ってしまう人が多いという話も聞く。

【参加者】来年から新制度の育成就労が始まると、都市部へ人材が流れる懸念がある。交通の便や地域のつながり、職場の環境整備が重要になる。

【市長】市では、奨学金の補助制度として、月1万円を10年間補填している。10年働けば定着率が上がる。外国人版の制度制定も検討したい。

【参加者】せっかく資格をとっても、手当が安く、収入が低いと他へ流出してしまう。

【参加者】日本人の介護士や看護師不足を、外国人が担ってくれている。

(日本語教室と支援について)

【参加者】宮竹小学校には県が日本語教室を作り、専任の先生がいる。根上地区にも日本語教室を市独自で設けてほしい。現在、当協会が支援している子どもは8人おり、子ども1人につき2人のサポーターがついているので、市内をあちこちサポーターが走らないといけない。

【市長】現状把握のため、人数や日本語能力の実態調査を行いたい。

【参加者】支援を必要とする子どもが10人を超えると、サポーターが足りなくなる。

【参加者】親が日本語を理解できず、学校からのお知らせが伝わらない問題があり、担任に頼まれたサポーターが連絡を取ることもある。コドモンの使い方も分からない人もいる。

【参加者】学校からのお知らせの文章をやさしい日本語にしてほしい。

【市長】連絡についても併せて調べる。

(空き家活用について)

【参加者】市営住宅や賃貸で香辛料の匂いを理由に、入居を断られるケースがある。空き家を安く活用できないか。

【市長】空き家は多いが、空き家バンクへの登録が少ない。ただ、新築価格の高騰で空き家の価値が見直されており、店舗活用などの成功例も出てきている。

(駅周辺のイベント活用について)

【参加者】魅力がないと若い人は集まらない。若い人が多いところに外国の若い人も来ると思う。

【市長】国際交流協会で多くのイベントを行ってもらっている。

【参加者】国際交流協会のイベントは一時より少し減ったが、代わりに市のイベントに参加するようにしている。当協会のイベントは国際交流に興味がある人しか集まらない。

【参加者】交流の裾野を広げるために、2年前から町会の祭り、文化祭、運動会等に外国人と一緒に積極的に参加している。

【市長】外国人の皆さんに興味を持ってもらえるようなイベントは何か。

【参加者】食べ物や音楽があるフェスが良いのではないかと。代々木公園でベトナムフェス等が開催されているので、能美市も能美根上駅前が多様性のPRを兼ねてイベントを行ってみてはどうか。

【市長】能美根上駅にのみでん車両を用いた無人コンビニがオープンする予定である。旧駅務室に食堂もでき、その二つの運営と清掃をある会社に行ってもらおう。イベント実施も契約内容に含まれているので、外国人も参加しやすいイベントにしてほしいという要望を出すこともできる。

【参加者】国際交流ひろばで10か国ほどの料理を出しており、毎月、駅でどこかの国の料理が食べられるようにしたい。

【参加者】当協会や他の団体、老人会、婦人会などが、それぞれ年に1回だけでも、そういうイベントを駅で開催すれば良いのではないかと。駅ならアクセスも良い。

【参加者】町の中に外国人にとって、自分たちの出番や自分たちをアピールできる場があると良い。

【市長】コンビニ内にはイートインスペースも設ける。3月29日オープン予定である。

(活動場所について)

【参加者】当協会の事務所が狭く、相談やサロン活動に適した場所がない。

【市長】寺井地区公民館等に常設で使える部屋を設けることは難しい。ふれあいプラザの相談室が空いていれば、貸すことができる。事務所周辺の公共施設を使ってもらいたい。

○閉会